**【論点：教育の質向上を目指す研究において**

**研究単位を「学校」に設定する意義とは何か？】**

【流れ】

【班の意見】

【論点】

**教育の質向上を目指す研究において**

**研究単位を「学校」に設定する意義とは何か？**

**1970年頃～（教育の質向上に関して）**

教育の質における責任主体の注目が

「個別の先生⇒各学校レベル」に変化。

学校改善つまりは「学校単位の改革で全体の教育の質向上」

を目指す政策や研究が注目される

数値化できる指標（生徒の成績etc.）に基づき

「効果的な学校（または成功した学校）」と「効果的でない学校」を分け

その二つを様々な観点から比較することで

成功した学校に共通する要素を割り出していく研究が盛んに！

①研究単位を「学校」に定めると学校内での生徒間格差を無視することになる

ex. 「成功した学校」内の学力レベルが低い子どもたち

　　　　　②「効果的な学校」に共通する要因を全ての学校で複製させることはほぼ不可能

　　　　　　（コンテキストの違い、現場レベルの問題などによる）［＝問題意識］

BUT

**上記のような問題やジレンマが考えられるが**

**「学校」単位での研究は行われ続けている。**

※この章の筆者も②の問題点を指摘(p187 L1)しているが

「学校単位での研究が教育の質向上に寄与する」というスタンスは貫いている!!

問題やジレンマがあるにもかかわらず

教育の質向上を目指した「学校単位」での研究が行われ続ける理由は何なのか？

ここで改めてその研究意義を考えてみたい。